

千葉教育

千葉の子どもたちの未来のために

菜

平成28年度
No.642

2・3月

特集 豊かな学びを支える集団づくり

○シリーズ 現代の教育事情

上越教育大学教職大学院教授	赤坂 真二
早稲田大学教育・総合科学学術院教授	河村 茂雄
県子どもと親のサポートセンター	
白井市教育委員会	

○提言

イオンモール(株)イオンモール幕張新都心 ゼネラルマネージャー	小野 大輔
---------------------------------	-------



千葉県総合教育センター

目次

千葉教育 菜 No.6 4 2

◆学校自慢

地域コミュニティの中にある小学校

船橋市立高根台第三小学校長

飯島 辰治

◆提言

情報化社会で身に付けるべきこと

イオンモール株イオンモール幕張新都心 ゼネラルマネージャー

小野 大輔 …2

シリーズ！ 現代の教育事情 豊かな学びを支える集団づくり

■アクティブ・ラーニングを実現する豊かな学びを支える集団の姿

上越教育大学教職大学院教授

赤坂 真二 …4

■アクティブ・ラーニング型授業の効果を左右するのは学級集団の状態である

早稲田大学教育・総合科学学術院教授

河村 茂雄 …6

■安心できる学級づくりで主体的・対話的で深い学びを

県子どもと親のサポートセンター …8

■豊かな人間関係づくり実践プログラム ～ピア・サポート・プログラムの取組について～

白井市教育委員会 …10

私の教師道

■学校を創る 新生『県船』～豊かな学校づくりを目指して～

県立船橋特別支援学校長

國井 光男 …12

■学校を支える 職員室文化の創造～職員室の担任として～

大網白里市立大網東小学校教頭

石川 和彦 …14

■学校を動かす 私のできることから

富津市立天羽中学校教諭

保坂 典江 …16

■研修を生かす 企業派遣研修で学んだこと～人を生かす組織づくり～

県立市原特別支援学校長

遠藤 和弘 …17

■授業を創る 考えることを楽しむ子算数が好きな子を育てるために

成田市立公津小学校教諭

榎澤由理子 …18

■子どもを知る 自己への挑戦～「やってごらん」～

松戸市立小金小学校教諭

菱沼 綾 …20

■子どもを知る 生徒と向き合う～初任者研修を通して学んだこと～

多古町立多古中学校教諭

閑野 勇飛 …20

活・研究 長期研究生からの報告

■小学校編 郷土について語る英語力を育む外国語活動

～ふるさと英語カルタの活用を通して～

浦安市立浦安小学校教諭

田村 敦 …21

■中学校編 日本の伝統音楽に親しむ指導の工夫

～雅楽「越天楽」の鑑賞と表現の関連を図りながら～

香取市立佐原第五中学校教諭

藤枝美弥子 …24

■高等学校編 高等学校家庭科食育プログラムの開発

～食行動における判断力を育てる～

県立成田西陵高等学校教諭

大嶋 明子 …27

情報アラカルト

■葛南教育事務所の現状と課題 ～つなげよう 葛南の輪～

県教育庁葛南教育事務所 …30

■東葛飾教育事務所の現状と課題 ～指導行政の推進について～

県教育庁東葛飾教育事務所 …31

■北総教育事務所の現状と課題 ～指導行政の推進～

県教育庁北総教育事務所 …32

■東上総教育事務所の現状と課題 ～今年もPDCAは、まず事務所から～

県教育庁東上総教育事務所 …33

■南房総教育事務所の現状と課題 ～サンサン南房総～

県教育庁南房総教育事務所 …34

■千葉市教育委員会の事務点検・評価について

千葉市教育委員会 …35

学校 NOW！

■学校歳時記 部活動をどう改善するか

教育創造研究センター所長

高階 玲治 …36

■笑顔をとれどもせ 子どもの居場所づくり ～つながるとは～

大網白里市立季美の森小学校教諭

宮田 利絵 …38

■平成28年度全国学力・学習状況調査 本県の結果について

県総合教育センター学力調査部

道 標

豊かな学びを支える集団づくり

学校は、「学級集団」の中で、知識や技能の獲得を目的とする教科学習の場であると同時に、学級生活を通して人間形成を担う共同体という性格を担っている。この機能を相対的に関連させ、子どもたちの学びをより豊かにし、児童生徒の能力の伸長を図るために、安全に、そして安心して生活できる集団づくりと、満足度の高い良好な学級集団を形成することが何よりも大切である。

しかしながら、本県の平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」による不登校児童生徒数は、小・中・高等学校を合わせると約8千名にのぼる。集団生活における様々な課題が存在すると、学級集団がうまく機能せずに豊かな学びにつなげることは難しいといえるだろう。

こうした状況のもとで、現在、次期学習指導要領の改

訂に向けた検討が大詰めを迎えている。そこでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現が、改訂の方向として示され、教育関係者の注目を集めている。

子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」を通して、問題発見・解決に向けた「深い学び」を実現していくためには、その基盤としての「学びの環境づくり」が不可欠であろう。そして、子どもたちにとっての学びの環境とは、自分たちの通う学校であり、教員や友人関係であり、学級である。

そこで本号では、学級集団を土台として、児童生徒一人一人が安心感や充実感を持って生活し、資質能力を伸ばしていくことができる「豊かな学びを支える集団づくり」について考えていきたい。